

理事挨拶 H30年12月16日 (日) 9:00～ 共通教育210番教室

おはようございます。

高知大学の教育担当理事をしております奥田一雄です。

本日は高大連携科学系研究フォーラム2018にご参加いただき、まことにありがとうございます。

開催にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

本高大連携科学系研究フォーラムは、高知県教育委員会と高知大学との高大連携教育事業の1つでございます。

今回はその4回目となり、また、発表形式が今回からポスター発表となったとお伺いしております。

この高大連携科学系研究フォーラムでは、高校生と高専生および大学生による研究成果が発表されます。

今回はおかげさまで16題におよぶ研究発表がございます。

実際のフォーラムでは、高校生、高専生、大学生との間で行われる質疑応答や討論を通じて、高校生のサイエンスに対する楽しさやモチベーションを向上させ、さらに高専生と大学生も含め、サイエンスを担う人材の底上げを目指しております。

ところで、学力の三要素というのがございます。

これはいわゆる『高大接続改革答申』の中で示されている、学校で養うべき資質・能力の内容で、1つは基本的な知識・技能が挙げられております。

2つは思考力・判断力・表現力、3つは主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度を言います。

高校生諸君にとって、本日の研究発表までには、研究テーマの設定に始まり、研究の方法や進め方を計画し、結果を考察し、まとめに至る過程で、多数の失敗や試行錯誤をされてきたのではないのでしょうか。

そのようなプロセスで様々な知識を学んで駆使し、深く考え、最終的にプレゼンテーションができるよう努力されてきたと思います。

これはまさしく、学力の三要素におけるそれぞれの資質と能力を自ら養い、大いに発揮されてきたのであろうと考えられます。

私の学生時代を振り返れば、今から40年ほど前、私自身が人前で研究成果を初めて発表したのは大学院生のときでした。

実験と結果の考察、まとめ、スライド作りなどに多くの時間を要し、発表中は緊張して何を言っているのか分からないほどでした。

そのころは、高校生はいうにおよばず、大学生でさえ、プレゼンテーションをして討論をするというようなことはほとんどなかったと思います。

現代とは隔世の感がございます。

本日の高大連携科学系研究フォーラムでは、多方面の分野から最新の研究成果が発表されます。

どうか、活発な議論と意見交換をしていただき、皆さま方にとって有意義な時間となることを祈念いたし、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。